

第1学年 国語科学習指導案

指導者 川原井 由梨

1 単元名 「おしえちゃおブック」をつくって、学校のことをおうちのひとにしらせよう

2 題材 「しらせたいな 見せたいな」（光村図書 1年下）

3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「学校にいるカメを観察したことを書いて家の人に知らせる」ことを位置付けた。学校で見つけたカメを家の人に見せたい。しかし、持ち帰ることができない。そこで、カメのことがよく分かるように文章を書いて家の人に教えよう、という目的をもって学習を進めることで、相手意識、目的意識を明確にして学習を進めることができる活動である。家の人に伝わるように、分かりやすく文章を書くためには、どんなことを、どんな順番で、どのように書いたら良いのかについて考えることが必要である。したがって、本単元でねらう、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）第1学年及び第2学年「B書くこと」の指導事項ア、イ、ウ、エを実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

4 単元について

(1) 児童観（在籍＊＊名）

1学期教材「かけるようになった」（7月）では、体育の時間に行った手つなぎ鬼のことを家の人に教えようという言語活動を行った。主語と述語の関係に気を付けて「いつ、何をしたか」「誰と、どんな風にやったか」「その時の気持ちはどうだったか」の3文以上で書き表すことを約束とした。結果、主語と述語の関係に気を付けることができた児童は多く見られた。しかし、「いつ、何をしたか」の1文を書いた後、書くことが見つからずに書き進められない児童が＊以上見られた。また、助詞「は」や促音、拗音を正しく使うことにも課題が見られた。このことから、書こうとする題材に必要な事柄を集め取材の力、自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考える構成の能力、文章を読み返す推敲の能力が十分に身に付いていないことが分かった。そのため、手立てを講じ、丁寧に指導を重ねていくことが必要であると考える。

(2) 教材観

本教材は2学期唯一の作文教材である。児童にとって身近なものを取り上げ、題材の色や形、様子という視点をもって、よく見て書く単元である。家の人に知らせるという相手意識、目的意識をもたせ、読む人がよく分かるように書くことを求めている。絵カードを作り、メモを書いてから文章を書く手順で、作文の例には、内容によって改行すること、推敲のことが組まれている。取材・構成・記述・推敲の書く過程を学習する初めての単元になる。視点を明確にし、題材をよく見て必要な事柄を集め取材の能力、内容毎のまとまりで書く順番を考える構成の能力、文章を読み返して助詞や撥音、拗音の間違いに気付き、直そうとする推敲の能力など、児童に付けてい能力を育成するのに適した教材であると考える。

(3) 指導観

本単元では、導入で「『おしえちゃおブック』をつくろう」という目標を児童に提示し、相手意識、目的意識をもって学習が進められるようにする。その際、学校にいるカメについて書いた『おしえちゃおブック』を用意して児童に提示し、本単元の活動のイメージがもてるようしたい。

児童の実態から、取材、構成、推敲の力に課題があることが分かったので、「しらせたいな、見せたいな」の教材文などを使って、取材、構成、記述、推敲についてしっかりと押さえ、分かりやすく書くことができるようにならべたい。その後、学んだことを生かしながら、学校にいるカメを題材に学習を進めていく。まず、取材の活動では、付箋紙を活用し、1枚の付箋紙にカメの体の一つの部分（目、足、甲羅など）について書くことができるようになる。次に構成の活動では、取材で書いた付箋紙を並び替える活動を行い、このことを通して文章の簡単な構成を意識できるようにする。その際、児童が3部構成の形式を意識することができるようになるために、「始め・中・終わり」を「頭・お腹・しっぽ」にした「たいやきさくぶん」を児童に提示し、活用できるようにする。続いて記述の活動では、一つの付箋紙に対して一つのことが書けるような短冊カードを用意する。付箋紙や短冊カードは「始め」黄色、「中」ピンク、「終わり」水色に色分けしたものを使用することで、視覚的にも文章の構成が分かりやすくなるようにする。

本単元の言語活動は、全員が学校にいるカメを題材に活動を進めていくので、各個人での活動だけではなく、友達同士の学び合いを積極的に取り入れていきたい。同じ題材で学習を進めていくので、友達と交換して見せ合うことを通して、同じ部分や違う部分に気付くことができると考える。特に推敲に関しては、自分で読み返した後、友達同士で読み合う場として「見せっこ広場」を設定し、分かりやすくかけているか、助詞や促音、拗音の書き間違いはないかについて確認できるようにしていきたい。

5 単元の目標

- 学校にいる生き物のことを家の人に知らせるために、よく見たり考えたりして書こうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 書こうとする題材に必要な事柄をよく観察し、簡単な構成を考えながら書くことができる。
(書くこと)
- 書いた文を読み返す習慣を付け、間違いを見付けることができる。
(書くこと)
- 主語と述語の関係に注意し、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・学校にいる生き物について、家の人に書いて知らせようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知らせたいことについて、必要な事柄を観察して書こうとしている。 ・自分が知らせたいことについて、順序を考え、主語と述語の関係に注意して書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・句読点や文字を正しく表記している。

7 単元の指導計画（8時間扱い）

次 時	主 な 学 習 活 動	評 価 規 準 (観 点)
1 1	『おしえちゃおブック』を見て、学校にいるカメを家の人に知らせるために、よく見て分かりやすい文章を書こうという学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方が分かり、カメについて家の人に書いて知らせようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
2 1	学校にいるカメの絵を観察して描き、観察して気付いたことを付箋紙に書いて貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ・カメの体の各部分について、観点を意識して、色・形・様子などの特徴や思ったことなどを書き留めている。 (書く能力)
	構成を考えながら、付箋紙を並べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な構成を考えながら、付箋紙を並び替えている。 (書く能力)
	学校にいるカメについての文章を書く。 <u>(本時は第4時)</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に注意してまとまり毎に書いている。 (書く能力) ・句読点や文字を正しく表記している。 (言語についての知識・理解・技能)
3 1 2	文章を読み返して直し、丁寧に清書して『おしえちゃおブック』にして友達と読み合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を、句読点や文字に気を付けて読み返し、間違いを直している。 (書く能力)

8 本時の学習

(1) 目標

- 並び替えた付箋紙を基に、主語と述語の関係に注意して、まとまり毎にカメについて書くことができる。
(書くこと)

(2) 準備・資料

学習計画表、カメの写真、ワークシート、短冊（ピンク）、拡大した取材メモと教材文

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> おうちのひとがよくわかるように、まとまりにきをつけてカメのことをかこう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を使って本時の活動を確認することで、学習のねらいを明確にする。 ・カメについて書いたものは、「おしえちゃおブック」にして家の人に読んでもらうことを強調し、書く意欲を高める。
<p>2 本時の学習の進め方を知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ワークシートの付箋紙を基に、ピンク色の短冊に文を書く。 (2) 3枚書き終わったら、「きょうのやくそく」を守って文が書けているか、平仮名の書き間違いはないか自分で確認する。 (3) 「見せっこひろば」で友達と交換し、間 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述の時間の活動の流れを確認して黒板にも明記することで、児童が本時の学習の流れを十分に理解できるようにする。 ・ワークシートに「作文チェックカード」を付けておき、自分で行う見直し、友達と交換して行う見直しの時に、文章を読む視点を明確にして読み返すことができるようとする。

違っているところや上手だなと思うところを伝え合う。

- 3 「きょうのやくそく」を確認する。
・ぶんのおわりに、まる(。)をつける。
・「○○は～です。(ます。)」
「○○が～です。(ます。)」でかく。
※二つか三つのことを一つの文で書きたい時は、「～て(で)～です。」を使う。
(例) 目は、まくろで、まるくてとてもかわいいです。

4 付箋紙に書いたメモを文にする。

- (1) ピンクの短冊に文を書く。
・あしはきょうりゅうのあしみたいです。
つめがとがっています。
・目は、とてもちいさくてかわいいです。
じいっとわたしを見ていました。
(2) 見直し(一人で読む)
(3) 見せっこ広場(友達と交換して読む)
(友達の文を読む視点)
・「きょうのやくそく」をまもってかいていますか。
・ひらがなのまちがいはありませんか。
・よんで、カメのことがよくわかるなとおもったところはありましたか。

5 本時の学習を振り返る。

- (1) 本時の学習を振り返り、ノートに書く。
・文のおわりのまるをわすれなかった。
・二つのことをつなげてかくのがむずかしかったけれど、できてうれしい。
・ちいさい「つ」がなかったのを、ともだちがおしゃてくれたからなおせた。
・○○さんの文がわかりやすかった。
(2) 学習計画表を使って、次時の活動について知る。

- ・本時の記述のめあてを「きょうのやくそく」として二つに絞り、児童がねらいに迫りやすくなるようにする。
・家の人気が読んでよく分かるようにするために、必ず主語を入れて書くことを意識させるようにする。

- ・付箋紙のメモを文章にして短冊に書くという学習活動を十分に理解して活動を進められるようになるために、教科書のモルモットの題材を例としてメモから文章に書き直すところを見せる。その際、わざと平仮名を間違えて書いて児童に気付かせることで、推敲の意識を高めたい。

〔記〕 主語と述語の関係に注意して、まとまり毎にカメのことを書いている。(書くこと、短冊)

- ・うまく書き出せない児童には、付箋紙に書いてあるメモを確認し、書きたい文を言葉に出してから短冊に書き進められるように支援する。
・すぐに直せる平仮名の間違いに気付いた時は訂正を促し、その場で間違いを直すようとする。
・平仮名が未習得である児童には、50音表を用意し、表記の手助けとする。
・良く書き進めている児童には、良い点を具体的に褒めたり、本時の最後に手本となる文章を全体へ紹介したりする。
・早い段階で三つのメモについて書き終わってしまった児童には、文を詳しくすることができるよう、付け足しの言葉を助言したり、児童に考えさせたりする。

- ・本時の学習を振り返り、できるようになったことや難しかったこと、友達の文章を読んだ感想を発表し、各自ノートにも書く。
・「きょうのやくそく」を守って書いている文章を何点か選び、全体に紹介する。
・次時は、「しっぽ」(おわり)の部分を書いて清書していくことを予告し、意欲を高めたい。